

夏の努力を最大限に生かす

茗溪塾塾長 長谷誠基

8月は台風で翻弄された月でした。8月12日、今年母が卒寿のためお祝いする予定で帰省したのですが、その当日台風が東北地方に接近しました。前日から一部の在来線が止まる予定でしたが、結局すべての在来線がストップし、仙台の1つ先まで新幹線で移動しそこから車で自宅に帰りました。駅を降りるとロータリーは車であふれ、大勢の人が待っていました。

次は8月16日、今度は関東地方を直撃したため急遽16日の夏期集中特訓を中止し、3日間で実施し、フォロー日を設定するという形になりました。集中特訓は一部の行事を中止しましたが、一番の狙いである「勉強法の体得」はみんなが経験できるようにスケジュールの調整を行いました。ご協力いただいた保護者の方々には改めてお礼を申し上げます。

そして、8月の終わりにのろのろと進む台風が接近しています。九州地方にはすでに大雨が降っていて、台風から離れた地域でも雨が強くなっています。今年は今後も台風には注意が必要だと思います。

8月の後半から9月にかけて、受験生は親子説明会や激励会が行われます。この夏の頑張った様子や、今後の学習の注意点などをお話しさせていただきましたが、毎年この時期に強調するのは、「夏の頑張りが身になるには、9月に整理学習が必要」だということです。夏期講習では約一ヶ月の間に今まで学習したことをすべて復習しています。授業で「あっ、そういうことか！」とか「なるほど！」など再度説明を聞くことで、理解が進んだ部分も多いと思いますし、定着したものも多くあります。しかし、すべてができるようになったか？と言われれば、まだそうではありません。生徒たちの頭の中は学習した内容が詰まっているだけで、整理されていないのです。そこで必要なのが解き直し。夏の内容を簡単にでも解きなおすことで学習内容が整理され、テストなどで引き出せるようになっていきます。この整理学習をやらないとせっかく努力した夏がもったいないことになります。

ただ、すべてをやり直すのは無理です。「間違えた問題だけ」や「基本問題だけ」、または「苦手な単元の基本のみ」などのようにやることを絞ってやると良いでしょう。解き直すと同時に「ああ、こんなことがあったな…」とか記憶がよみがえってくるとしめたものです。エピソードの記憶と共に頭に残るものになります。この整理学習をした10月以降に模擬試験や過去問で成果が出るようになってきます。9月は総合問題を解きながら、間違えたものを夏の教材で復習するという学習を続けていきましょう。